

2021年

## 5月のカレンダー

学びの広場

みんなのちからで35年  
 (今年の9月に35年目を迎えます)

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
				スタッフ ミーティング 10~1時	金曜デイ 10~12時 アート	青年の会 10~1時
9	10	11	12	13	14	15
				スタッフ ミーティング		
16	17	18	19	20	21	22
				スタッフ ミーティング	金曜デイ 織りもの	青年の会
23	24	25	26	27	28	29
				スタッフ ミーティング		
30	31					

## 5月の活動についてのお知らせ

今月の活動予定は表記の通りです。

- ・金曜デイ  
5/7、21 の2回、人数を考えながら  
参加して頂きます。
- ・青年の会  
5/8、22の内、人数を分けて1回  
ずつ参加して頂きます。

その他グループ活動はもうしばらくお休みです。



満開の桜

武蔵国分寺公園で



Gさんの絵

★学びの広場に入室する時には、マスクの着用、手指の消毒をお願いします。また、ご家庭での検温など健康管理にご協力ください。

学びの広場

TEL&FAX 042-322-7160

H P <http://manabinohiroba.com/>

E-mail [hiroba@pop17.odn.ne.jp](mailto:hiroba@pop17.odn.ne.jp)

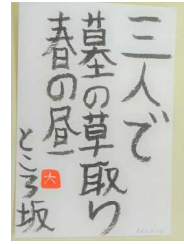




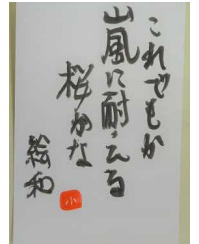
Sさん



Kさん



はさん



Kさん

Tさん

Dさん

## 『小さな先生』



4月のある放課後、今年小学一年生になったばかりの乗り物好きな男の子と電車に乗った時のこと…。マスクが苦手だったりもするので、いつもの様に空いている1番後ろの車両に乗り、ドアの前に立って二人で外を眺めていました。すると小学生低学年くらいの制服姿にランドセルの女の子が、はにかむように「どうぞ、席空いてますよ～」と、後ろから声を掛けてくれました。その子は、僕たちと同じ駅から乗り込んだ女の子でした。まだ2時を回ったところで、おまけに最後尾の車両ですから、空いているどころか座席はガラガラです。座りたければ席はたっぷりありました(その日は一駅で降りるということもありましたが…普段でも席に座ると興奮して声が出てしまったりするため、ドアの前で外を眺めるというスタイルに定着しつつありました)。

僕は、そんな中この時代に小学生低学年の女の子が知らない大人(しかもオジさん)に声を掛けてまでして下さった、その心遣いと勇氣に、胸を打たれ、心が温まりました。

「ありがとう。でもねこの子、ここから電車見るのが好きなんだ。ありがとうね…音小の子？」

「うん、2年生…この子(男の子)は？」

「この子は1年生なんだ…僕ね、前に音小の近くのアパートに住んでたんだよ」

女の子は、ニコッと微笑みました。僕たちは次の駅で降り、女の子に手を振りました。僕は、この女の子がいつまでも、そういう子であって欲しいと、そしていつまでもそういう子でいられる世の中であって欲しいと願わずにられません。

数日後、朝の用事を済ませて自転車で家に帰る途中、シルバーカーを押して歩く年配の女性を見かけました。そのシルバーカーの上には透明のゴミ袋に入った沢山の衣類などを載せていました。日曜日の朝7時台だったので「どうしたのかなあ？」と少し思いましたが、仕事の前で急いでいたのでそのまま通り過ぎました。私は、ペダルを漕ぎながら、ふと先日の女の子のことを思い出しました。

「もしも、あの子がこのおばあちゃんと擦れ違っていたら、間違いなく声を掛けるだろうな」と思いました。私は、立ち止まって考えた挙げ句、大分進んでしまった道を引き返すと、その女性はスーパーの脇のレガの上おんしょうに腰掛けていました。

前夜の大雨が上がり清々しい晴天だったので、私はそのおばあちゃんに「いい天気になりましたねえ…」と声を掛けると、その女性はスーパーに隣接したコインランドリーへ洗濯をしに来たとのことで開店を待っていました。よく見ると品の良さそうなそのおばあちゃんと、たわいの無い会話を交わし、家に戻りました。

私は、下町の長屋で育ったせいもあってか、何かあれば躊躇なく知らない人にも話し掛けるような男でしたが…いつのまにか、この時勢に合わせてなのか、自分の中で色々な理由を付けて、余計なことはあまりしない、良く言えば出しゃばらないようになっていました(一般の方から見れば今でも充分に出しゃばりに映るようですが…笑)。

どちらがいいのかは、私には分かりません。ただ僕は、あの時の小学2年生の女の子から大切な事を教えてもらいました。そして、心からそれを見習いたいと思いました。

いつかまた、その子に会えた時、自分に恥ずかしくないように…。

(柳澤正敏)